



会津若松旅行



代表取締役
矢作文弘

私は、工業高校建築科を卒業してY社に入社し、現場に十年弱勤務した後、会社を設立して現在に至っております。先日、当時勤務していたY社の社員達と再会する機会がありました。九州から4名、東京から2名、福島から2名、計8名で福島観光を兼ねて二泊三日で会津若松を中心に旅行をすることになったのです。

同期が1名、あとは後輩になる元社員達、そして一人は同期の知人の建設会社社長との3日間でした。東京駅(銀の鈴前)にて九州組と合流し、計6名で郡山へ向かいました。車中は、お弁当をお伴に、昔話に花を咲かせながら楽しい時を過ごしました。約1時間10分位で郡山駅に到着すると、懐かしい顔が二人で出迎えに来てくれました。メンバー全員がそろった後は2台の乗用車に分乗して出発しました。

最初の二日間は、会津若松駅前ホテルに二連泊して、大内宿の街並みを散策、市内観光、鶴ヶ城、飯森山、さざえ堂などを訪れました。そして三日目は、裏磐梯(五色沼)、野口英世記念館、猪苗代湖を地元の案内ならでの説明を聞きながら見学させてもらいました。企画してくれたメンバーの心遣いで、地元の料理中心のおいしい食事やお酒に囲まれ、何一つ無駄・無理のないスケジュールで、幸福な一時を過ごさせてもらいました。

「六十歳を超えてからの数十年ぶりの再会」というのは、貴重な機会です。

参加者のH君は、私がY社で浜松町の現場を担当していた時に新入社員として現場に配属になりました。その時以来四十数年ぶりの再会でした。

当時は、顔が少し角ばっていて目が大きいという印象があったのですが、今回再会した瞬間は、私の記憶とは見た目が全く違う印象を受けました。しかし、だんだんと話しをしているうちに、話し方やしぐさから、昔の面影や記憶が少しずつ繋がってきて、共に過ごした日々の些細な思い出が頭の中でよみがえりました。若かりし時を共に過ごした仲間と、数十年後に再会し、昔を懐かしんでお酒を酌み交わし、語らうのは、なんと心躍る時間でしょうか。

お互いの立場は違うけれど、元気で真面目に人生を過ごしていると、こんなに素晴らしいことがあるのかと、しみじみと喜びを噛みしめました。来年は東京での再会を約して散会しました。次回もとても楽しみです。

勤続40年目で思うこと



常務
吉田 宏

私が葛西建設に入社したのはちょうど40年前、23歳の時でした。

前職で、社長と同じ会社に勤めており、現場で約1年間一緒に働いたことがきっかけで、社長と深谷さん(社長の同級生で元専務)と知り合いました。その縁があって、二人が起業した際に誘ってもらい、葛西建設に入社しました。

創業当時の葛西建設は、松江の京葉道路沿いの社長の同級生の家の敷地の一部にたてた小さな事務所で営業をしていました。その後松江の事務所を経て、社員が増えたのを機に、行徳と小松川ビルと松江と春江町の4箇所に分散していた営業所を1つにまとめて、今の春江町本社ビルに移ってきました。以前は日々業務に追われて毎日夜9~10時まで残業し、帰って寝たらまたすぐ出社の繰り返し。昨日の続きとしての今日を毎日必死に過ごした日々でした。

その後、専門学校や工業高校を卒業したばかりの新入社員が8名入社し、私は現場監督から一時営業にまわるようになりました。

ようやくここ数年は、若い人がたくさん入社したので安心して、ある程度落ち着いて俯瞰的に仕事ができるようになり、喜ばしく思っています。

仕事人生の転機となったのは、自分が51歳の時にがんになったこととです。健康診断でがんが発見され35日間入院し、手術した後、9年間毎年検査をしてきました。今はおかげさまで完治して健康にしています。また、東日本大震災では、故郷である福島が被災しました。自分の家の近所は被害がそれほど大きくなかったですが、ひどく被害の大きいエリアの状況も目にしました。

これらの出来事を機に「人間はいつ死ぬかわからないので、今までみたいに昨日の続きを漫然と過ごすだけではいけないな」と思うようになりました。

それからは、美しい日本の四季の移り変わりに目を奪われたり、よく言われるような「桜があと何回見られるかな」という考えが頭に浮かんだり、日々目にするものの見方が大分変わったと思います。これからの人生、1日1日を大切に、小さなことに喜びを見出して過ごしていきたいと思っています。

葛西建設には、ここ最近毎年新入社員が入社しています。今の若い子は、真面目で仕事に前向きで、今の状態のまま協力し続けていければ良いなと思います。

入社して5年くらい経つと自分の実力を試したくなるもので、夢と希望を胸に一度外に出る人もいますが、葛西建設の場合は、本人の意思にまかせることで結果的に人材が戻ってきています。戻ってくるということは、会社として魅力ある環境作りができていることでもあり、また本人たちにも考えるところがあることだと思います。そうした人たちが専務や原田くんを中心にリーダーシップを発揮していけば、葛西建設はより飛躍して強い会社に成長できると思います。後輩達へのメッセージとしては、知識・技術だけではなく、営業力も兼ね備えた人間になってもらいたい、ということです。



四半世紀

工事部部长
原田 紅児

早いもので葛西建設に入社して二十五年が経ちました。ここまで長く一つの会社に勤めているとは思いませんでした。まず建築の仕事が自分に向いているのかどうかも分かりませんでしたし、大体自分に何が出来るのかもわかりませんでした。

そんな中、当時の先輩や上司がよくご飯をご馳走してくれたり、色々と相談にのってもらい何とか三年間頑張ってみました。

ある時上司に、「社会人は、三年五年七年十年と節目節目で自分の事や仕事のことを考えていけばもっと楽に長く勤まるよ！」と言われ、それを実行しました。そして、節目節目で、自分の仕事のスキルも少しずつ上げていき、現在に至りました。今は、当時アドバイスをくれた先輩や上司の方々は、ほとんどいません。逆に、後輩や部下が沢山増えました。ふと考えると、いつの間にか教わる立場から教える立場になったのだなあ、と改めて思う今日この頃です。

ひとえに二十五年といっても、公私共に色々ありました。会社関係の人との出会いや別れ、その一人一人の思いが今の仕事に対する姿勢の基礎になっています。

まだまだ力量不足の僕ですが、これからも沢山の人の出会いや仕事の経験を積んで、より良い形で後輩達に教えていけたら良いなと思います。また、私事では、十四年前に結婚をして一男一女を授かりました。現在上の子供は中学校一年生で、女子バスケット部に入り、土日や夏休みもずっと部活に行き、残り少ないレギュラーの枠を目指して頑張っています。下の子供は、小学校三年生になり、週四日のペースでサッカーチームに行き夜八時迄練習をしています。僕も三十五歳まで草サッカーをやっていたので、技術や戦術のことで話す機会が増えて大変嬉しく思います。

最後に、昔僕が入社した頃、先輩方は「時代が変わった」とよく言っていました。僕も今、二十五年前を振り返ると時代が変わったと思います。「でも、人の思いは変わらない。」機械がいくら進歩しようとサポート的存在でしかありません。「造り上げるのは人である。」そう思いながら日々の仕事に取り組んでいます。